**キャリア・アンカー**

**キャリア・アンカー**とは、アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学（MIT）スローン経営大学院名誉教授 組織心理学者エドガー・シャインによって提唱された概念である。人が自らのキャリアを選択する際に、最も大切な（どうしても犠牲にしたくない）価値観や欲求のこと、また、周囲が変化しても自己の内面で不動なもののことをいう。

キャリア・アンカーがより具体的に分かってくるのは、社会人として実際に仕事を経験してからといわれるが自身のキャリア・アンカー＝キャリアに関する自己概念（セルフイメージ）がどのようなものであるかは、学生時代でもおおむね予測できる。次の質問に正直にかつ余り考えすぎずに答えることで自己概念の傾向を分析してみよう。

**スコアのいれ方**

**質問票**の各問いに対して、以下のように得点を入れる

"1" まったくそう思わない

"2" または "3" あまりそうは思わない

"4" または"5" そう思うことが多い

"6" まったくその通りだと思う

| まったくそう思わない | あまりそうは思わない | | そう思うことが多い | | まったくその通りだと思う |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |

\_\_\_\_\_\_ 1. ある分野の専門性を高め、専門家としての自信を持って活動できるようになりたい

\_\_\_\_\_\_ 2. 組織･グループの人々の活動を指導･統括して成果を上げたとき、充実感を感じる

\_\_\_\_\_\_ 3. 仕事の進め方も、時間の配分も自分で決められるような仕事につきたい

\_\_\_\_\_\_ 4. 雇用が保障され、収入も安定することの方が、自己決定や自由裁量より大切だ

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| まったくそう思わない | あまりそうは思わない | | そう思うことが多い | | まったくその通りだと思う |
|  |  |  |  |  |  |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |

\_\_\_\_\_\_ 5. 独自に仕事を始められるようなアイデアや、チャンスがないかと常に注意している

\_\_\_\_\_\_ 6. 社会福祉への貢献度に満ち足りているようなキャリアを実現したい

\_\_\_\_\_\_ 7. 難しい課題に挑戦し続けていけるようなキャリアに張り合いを感じる

\_\_\_\_\_\_ 8. 自分自身の関心、家族への配慮などを軽視するような組織には入りたくない

\_\_\_\_\_\_ 9. 専門分野･担当分野での専門性を高めつづけていくことに真の充実感がある

\_\_\_\_\_\_ 10. 組織体の執行責任者として、多くの人に影響を与えるような立場で仕事をしたい

\_\_\_\_\_\_ 11. 課題･優先順位･手順などを自分で決められるときに大きな喜びを感じる

\_\_\_\_\_\_ 12. 自分の将来の保障をしてくれないような会社に勤めても仕方がない

\_\_\_\_\_\_ 13. 会社の組織の中で昇進を望むよりも、自分のビジネスを始めることのほうが重要である

\_\_\_\_\_\_ 14. 自分の能力が人々のために役立っていると実感できるようなキャリアを選びたい

\_\_\_\_\_\_ 15. 困難な状況に立ち向かい、それを克服できた時こそ、真の達成感を味わえる

\_\_\_\_\_\_ 16. 自分の関心、家族への配慮、仕事上の要請をうまく調和させることが理想である

\_\_\_\_\_\_ 17. 上級管理職を目指すより、専門家として能力を発揮するキャリアを選びたい

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| まったくそう思わない | あまりそうは思わない | | そう思うことが多い | | まったくその通りだと思う |
|  |  |  |  |  |  |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |

\_\_\_\_\_\_ 18. できれば組織の最高執行者になって、キャリア上の成功感を味わいたいと思う

\_\_\_\_\_\_ 19. 自分自身の自由･自主性が十分に認められることが、キャリア上の成功感となる

\_\_\_\_\_\_ 20. 安定感･安全感の得られる会社･仕事であることが自分にとってもっとも重要である

\_\_\_\_\_\_ 21. 自分自身の創造性が実を結んだ時こそ最高の達成感を味わえる

\_\_\_\_\_\_ 22. 生きやすく働きやすい社会作りに役立てれば、組織内での昇進を上回る喜びになる

\_\_\_\_\_\_ 23. 解決困難/勝算不明の状況を克服した時の達成感こそがキャリア成功といえる

\_\_\_\_\_\_ 24. 自分･家族･友人･仕事の調和を保つことが、キャリアの上で最も大切である

\_\_\_\_\_\_ 25. 自分に最適の専門領域から外されるくらいなら、その組織を辞めることを考える

\_\_\_\_\_\_ 26. 特定の専門分野の責任者となるより、広い範囲を統括する仕事/活動の方が好きだ

\_\_\_\_\_\_ 27. 安全･安定の保証より、制約･制限なく自由に活動できるキャリアを選択する

\_\_\_\_\_\_ 28. 経済的安定と雇用･身分の保証を実感できる時に仕事の満足も感じる

\_\_\_\_\_\_ 29. 自分自身のアイデアで何かを実現できた時の満足感が最高だ

\_\_\_\_\_\_ 30. 人間と社会に貢献できるような仕事/活動につくことが私の願いだ

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| まったくそう思わない | あまりそうは思わない | | そう思うことが多い | | まったくその通りだと思う |
|  |  |  |  |  |  |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |

\_\_\_\_\_\_ 31. 自分の問題解決能力や競争的能力が試されるような仕事にこそ価値を感じる

\_\_\_\_\_\_ 32. 仕事と私生活のバランスを失わないようにすることが、昇進より大切だ

\_\_\_\_\_\_ 33. 仕事上の充実感が得られるのは、自分独自の能力･専門力を発揮できている時だ

\_\_\_\_\_\_ 34. 会社の上級職位への昇進コースから外されるようなら、退社/転社を考える

\_\_\_\_\_\_ 35. 自己決定と自己裁量が著しく制限されるようなら、その職を離れることを考える

\_\_\_\_\_\_ 36. 安定感に満ちた組織の中でないとキャリアを真剣に考えることが出来ない

\_\_\_\_\_\_ 37. 自分の会社を創り、自分のビジネスを始めたいという願望を持っている

\_\_\_\_\_\_ 38. 社会福祉に貢献したい自分の願いを認めないような組織からは離れる

\_\_\_\_\_\_ 39. 上級管理職よりも、困難な問題解決に取組む仕事の方がやりがいがある

\_\_\_\_\_\_ 40. 家族を含む自分の私生活が乱されないような仕事につくことは重要だ

**得点**

まったくその通りだと思う』か『そう思うことが多い』をつけた項目のうち、とくに強く共感する項目を３つ選択し、それぞれに４ポイント追加する。最後に下のスコアシートに質問１から４０までのポイントを書き移して、コラムごとの合計を出す。（このとき上記の４ポイント追加を忘れないように計算)

一番得点の多い概念が自分のキャリアアンカーとなる。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **TF** |  | **GM** |  | **AU** |  | **SE** |  | **EC** |  | **SV** |  | **CH** |  | **LS** |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1 |  | 2 |  | 3 |  | 4 |  | 5 |  | 6 |  | 7 |  | 8 |  |
| 9 |  | 10 |  | 11 |  | 12 |  | 13 |  | 14 |  | 15 |  | 16 |  |
| 17 |  | 18 |  | 19 |  | 20 |  | 21 |  | 22 |  | 23 |  | 24 |  |
| 25 |  | 26 |  | 27 |  | 28 |  | 29 |  | 30 |  | 31 |  | 32 |  |
| 33 |  | 34 |  | 35 |  | 36 |  | 37 |  | 38 |  | 39 |  | 40 |  |

**合計:**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

**アンカー:**

TF: **技術的・機能的能力**technical-functional competence

GM: **管理能力**managerial competence

AU: **自律・独立**autonomy and independence

SE: **安全性**security and stability

EC: **創造性**creativity

SV: **奉仕・社会貢献**service / dedication to a cause

CH: **純粋な挑戦**challenge

LS: **ライフスタイル**lifestyle

**アンカーの説明**

|  |  |
| --- | --- |
| **種類** | **特徴** |
| **技術的・機能的能力** | 特定の仕事に対する高い才能と意欲を持ち、専門家として能力を発揮することに満足と喜びを覚えるタイプ。このタイプの人たちは、ほかの仕事に移ると、自分の能力があまり生かされないため、満足度が低下する。また、**2**．の「管理能力」アンカーとは異なり、マネージャ職に対して必ずしも魅力を感じない。マネージャになると管理業務が主となるため、自分の専門性が発揮できなくなるからである。 |
| **管理能力** | 組織の中で責任ある役割を担うことを望み、経営者を目指すタイプでいわゆる「出世志向」がある人。**１．**の「技術的・機能的能力」アンカーの人たちと異なり、専門能力の必要性は認めるものの、その専門性に特化するのではなく、企業経営に求められる全般的な能力の獲得を重視する。問題解決、人と接することを好む。 |
| **自律・独立** | どんな仕事であれ、自分のやり方、自分のペースを守って仕事を進めることを大切と考えるタイプ。このタイプは集団行動のための一定の規律が求められる企業組織に属することは好まず、独立の道を選ぶ傾向にある。また独立しないまでも、研究職など行動の自由度が高い職種を望む。 |
| **安全性** | 安全・確実で将来の変化をおおむね予測できる（逆にいえばあまり大きな変化はない）、環境での仕事を優先するタイプ。このタイプの人は安定的にひとつの組織に属することを望む |
| **創造性** | 新しい製品、サービスを開発したり、資金を調達して組織を立ち上げたり、既存事業を買収して再建するといったことに燃えるタイプ。具体的には、発明家、芸術家、あるいはアントレプレナー（起業家）を目指す人たちが該当する。このタイプは独立、起業する道を選ぶことが多いが3．の「自律・独立」タイプの人と異なり、何か新しいこと（事業や作品など）を生み出すといった創造性の発揮を重視するので自律・独立性を２の次とすることもある。 |
| **奉仕・社会貢献** | 何らかの形で社会を良くしたり、他人に奉仕したりすることを望むタイプ。医療、看護、社会福祉、教育などの分野を目指す人が該当する。近年注目されている「社会起業家」（ソーシャルアントレプレナー）は、社会的問題を営利事業を通じて解決することを目的とし、このタイプに入る。 |
| **純粋な挑戦** | 不可能と思えるような障害を乗り越えること、解決困難と思われてきた問題に挑戦することを追求するタイプ。常にあえて「困難」を探し求めているため、特定の仕事や専門性にこだわらず「挑戦」自体が人生のテーマとなる。 |
| **ライフスタイル** | 仕事と家庭生活、公的な仕事の時間と私的な個人の時間のどちらも大切にしたいと願い、両者の適切なバランスを考えているタイプ。仕事に打ち込む一方、例えば、子どもが生まれたら（男性であっても）育児休暇をしっかり取り、子育ても大切にするという生き方を積極的に志向する。 |